

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2693300044		
法人名	社会福祉法人 丹後福祉会		
事業所名	グループホームあみの		
所在地	〒 629-3101 京都府京丹後市網野町網野390-10		
自己評価作成日	平成22年10月1日	評価結果市町村受理日	平成23年2月7日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ハード面では、これ以上狭くできないだろう...と思えるほどの造りですが、地域性もあり、人情厚いグループホームと自負しています。朝は職員二人体制となる時点から夕方19:00頃までは玄関は開けたままで自由な出入りを見守りしています。各居室の窓はロックはなく、一般家庭の窓と同じです。時には、はき出しから外に出てしまわれ、隣接する事業所より通報があったりしますが事故にならないように最大の注意は行っています。町の中心に位置しており、何処に出かけるにも便利であり、基本的に、入所者の方と一緒に出かけしています。ご家族等が面会に来てくださっても、ゆっくりと過ごしていただける場所もなく申し訳ないですが、話しをしていただきやすい場所でありたいと職員は思っています。①地域の中でご家族の協力もいただきながら普通の生活をして頂きたい②認知症の進行が緩やかであるようケアを繋げたい。ご家族を忘れないでいただきたいと願っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo_kvoshakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2693300044&amp;SCD=320">http://kohyo_kvoshakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2693300044&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは、利用者の尊厳を守り地域との交流を大切にしています。事業所の広い駐車場の一部に花壇を作り椅子やテーブルを置き、子供の遊具などを設置して地域へ解放しています。保育園の園児が散歩で訪れたり、地域の方が気軽に尋ねて来られるなど交流が広がっています。入居者と職員は日々の買い物や、回覧板を廻すなど日常的に地域へ出かけています。京丹後市の依頼を受け排泄ケアの専門の資格であるオムツフッターの資格を持つ職員が介護教室の講師を勤めたり、地域に向けた相談会を行うなど事業所の持つ能力を地域に還元しています。又日々の食事では1日1回玄米食を摂ることで利用者の排便コントロールに良い効果が得られています。職員は事業所理念の下、皆で同じ方向を目指しチームワークで互いをフォローし合いながら理念に添ったケアの提供に努めています。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成22年11月16日

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の思いを大切にし 役割・楽しみのある新しい我が家を目指し 地域に根づいた支援に努めます。1、利用者の尊厳を守ります。2、安らぎと落ちついた空間作りに努めます。3、地域との交流を大切にします。 の理念の下、実践を行います。	設立当初職員間で話し合っ決めて理念は、事業所内の誰もが見やすい場所に掲げられています。職員は理念を理解し、ケア会議の中で日々理念に添ったケアが行えているか振る機会を持っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お隣の家と密接した環境の中、マナーを守ること、教えていただいたことは実践に繋ぐ努力を行う又、地域の行事(溝掃除・広場の草取り・お祭り)には積極的に参加させていただいたり地域の方にも入って頂きやすい環境づくりに努めている。幼稚園・保育園との年間を通じた交流もあり卒園式の案内もいただく。	駐車場の一部にテーブルや花壇、遊具などを設置し、地域に開放しています。保育園児の散歩コースになっていたり地域の方が花を持って気軽に尋ねて来るなど交流が広がっています。地区の地藏盆や夏祭りに参加し、年1回児童公園の掃除に利用者と共に参加しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	排泄用品の情報展示場「ミニむつき庵丹後」を同一敷地内の事業所に設置し地域に開いている。又、京丹後市の介護者教室の講師依頼を受け、オムツフィッターの資格を持つ職員が出向いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議録を全職員が読み、そこで出た意見を職員が把握しその後活かしている。	併設の小規模多機能事業所と合同で開催しています。家族代表や地区の区長、行政などの参加を得て行事報告やアドバイスを貰うなど意見交換の場となっています。会議で出された意見や要望については職員間で話し合い次回の会議時に結果報告を行っています。会議録は職員間で共有しサービスの向上につなげています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への出席により事業所の実情を理解して頂くことができている。又、常に連絡相談が可能な窓口であり協力体制は確立している。	市への訪問時や担当者の来訪時に、成年後見制度の事など分からない事は何でも相談しアドバイスを貰っています。運営推進会議や地域密着型合同の管理者会議にも参加があり共に意見交換を行い協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	PM7:30~AM8:00の職員一人体制の時間のみ玄関は施錠している。居室の窓は一般家庭と同じ状態で日中は開いている事が殆どである。身体拘束については現在一人の方が対象者。主治医より歩行は不可との診断である中、時に自己の思いで歩こうとされてしまう行為を拘束している。精神的負担のないケアに取り組むたい。	ケア会議の中で身体拘束について日々話し合っています。現在車椅子のブレーキ操作の問題で安全面への配慮から家族の同意を得た上での対象者がおられますがその対象者への精神的な弊害から、拘束廃止を目指し全職員で対応策を模索し廃止に向けて取り組んでいます。	
7		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市の会議等で学ぶ機会を持つ。入居者の方の身体状態を把握し「どうしてなったのか・・・」と、原因を究明に努めている。		

グループホームあみの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市の会議やケアマネ会議等で学ぶ機会を持つ。現在1名の方に保佐人が付かれており支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書・契約書類・個人情報の同意書により説明、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族代表として出席して頂きグループホームの立場から意見を出して頂いている。又家族会で要望等聞かせていただき運営に反映する努力を行っている。常の面会等、ご家族の要望や意見を聞かせて頂くように心がけている。	利用者家族の意見は面会時や電話などで日常的に聞いています。年に1回開催の家族会や利用者、家族が参加の遠足や新年会などで意見や要望を聞く機会を設けています。出された意見や要望は職員間で対応策について話し合い運営に反映するよう取り組んでいます。	出された意見や要望の中で一般的に公表してもいい内容については「日頃はこのように行っています、このように対応しました」等広報に載せたり、事業所に貼り出すなど他の利用者家族へも知らせることで事業所への信頼度が高まり家族も安心されるのではないのでしょうか。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見を聞いて頂けるチャンスはあり、月1回のケア会議は提案等意見交換ができる場となっている。早期に結果が出せる体制となっている。	人事考課の際に管理者が個々の職員と面接し意見や要望を聞いたり、施設長が訪れた時などにも聞いています。職員は意見を言いやすい環境にあり日頃から多くの意見が出されています。出された意見はそのつど対応し、案件によっては法人の上司へ報告しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度が導入されている。代表者(総施設長)が現場状況等を把握し、職員が向上心を持って働きやすい環境等の整備に努めていただいていると感じられる。働きがいがある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者(総施設長)は職員が話しやすい環境をつくり、各自の思いや事業所の状況把握に努められている。研修計画に基づき法人内の研修は行われている。又、自主研修への情報提供として随時紹介がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に市内の事業所が集まり地域密着型意見交換会が管理者(代表者)部門とケアワーカー部門に分かれて持たれている。今年度、ケアワーカー部門は事業所間交換研修に取り組んでおり有意義な研修が行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安を訴えられた際やいつもとは違う様子の際には必ず、直ぐに本人の話を聞くようにしている。今のことを忘れてしまう・・・そんなケースもあるが本人に寄り添い安心できるケアを目指している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話を聞かせて頂く姿勢でいる。3ヶ月毎の報告書類をお渡しする際には担当ケアワーカーが手紙等を添え近況報告をさせて頂いている。受診結果の報告を行う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人の生活暦を把握し、ご家族の関係が途切れてしまわないケアをさせて頂きたいと考えている。ご家族の状況を知り過度の負担と感じられることのない配慮は必要と思う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、調理、買い物等日常の生活を共に行っている。昔の智恵を発揮し活かすことにつなげたいと考えている。時には甘えて肩たたきしていただくこともあり、「ありがとう・・・」の感謝を伝える。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員も困りごとがあればご家族に相談させて頂く。家族会、家族遠足、新年会等の行事に参加して頂けるように日程等の配慮を行う。共に支える体制であることで最期の時を互いが少しでも悔いの少ないものと考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	短時間ではあるが月に一度の自宅帰省や馴染みの場所にドライブするを行っている。又、面会等については最落ち着いた環境で過して頂きたいと考え最大限の配慮を行う。地域に出かけることを意識し取り組んでいる。	以前住んでいた家へ帰省する方や、息子と一緒に遠方への墓参りに行かれる方、行きつけの美容院へ通われる方もあります。地元の入居者が多く日々の買い物では馴染みの店へ職員と一緒にいらっしゃいます。誕生日に同級生がケーキを持って訪ねて来る方もあり馴染みの関係が継続できるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に出来ること(歌を歌う・日向ぼっこ等)を取り入れ短時間でも共に過ごす時間をつくるようしている。攻撃的な場合でも職員が中に入り関係性を大切に考えている。		

グループホームあみの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に入居されたご利用者の方が施設職員さんと遊びに来て下さったり、施設間交流の中で近況を聞かせて頂く事がある。ご家族とは地域の中で出会ったときに立ち話ができる関係を保持している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご自分で希望や意向を伝えて下さるケースは少ないが何気ない日常会話から汲み取れることがあり、支援に繋ぐように努めている。	家族から聞いたり、センター方式を用いたアセスメント用紙を利用し、これまでの生活歴や意向などの情報を得ています。日々気付いた事などを個人記録や連絡帳に残し、その時々で得られた利用者の希望などを書き加えながら思いを汲み取るよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との会話からであったり、近況を報告した際のご家族からの情報であったり知り得た情報は共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	小規模事業所でありご利用者の方の状態把握は出来やすい。表情や身体状態、排便の状況等を把握しその日の状態に合わせて出来ることをしていただくケアに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人に役割があり安心できる生活を担当ケアワーカーを中心に検討し必要に応じてご家族に相談させていただいている。介護計画は必要に応じて見直しを行う。	ケア会議は家族へ参加の声掛けを行い、必要時には看護師、医師など専門職の意見を聞き介護計画に反映させています。ケア計画に沿って毎月モニタリングを行っています。利用者や家族の意見を聞きながら、状態に変化があれば随時見直し、変化が無ければ6ヶ月毎に見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録、連絡帳記録に各職員の気づきや情報を記入し共有している。又、職員間の申し送りにより日々の変化に柔軟に対応し記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	予定したサービスにとどまらず、その時の状況に応じて対応させていただく体制を持っている。		

グループホームあみの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育所・幼稚園から行事に招待していただいたり訪問があったり交流ができている。地域の中心に位置していることから様々な年中行事に参加できる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前の主治医の受診継続ができている。医療連携室や馴染みの病院看護師さんとの関係も構築できており支援が得られる体制もある。内科と歯科の往診も受けている。	近くの方を希望されかかりつけ医を変更される方もありますが基本的には以前からのかかりつけ医の継続を支援しています。緊急時は協力医療機関である丹後中央病院の主治医や看護師と連携を図り、安心してもらえる医療体制となっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	今年の7月よりホーム内に看護師配置はないが同一敷地内の事業所より協力体制がある。常に相談や助言、必要な指示が得られる体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	通常受診介助をケアワーカー全員が行うことで病院との関係が近いものと感じられたり病院関係者とのやり取りに慣れることができている。入院の際には、面会等で情報の交換をおこなったり使い慣れた自助具を持参したりしている。退院前にはカンファレンスを開催している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関の意見、職員の思い、ご家族の希望により退院に繋がったケースがある。重度化や終末期に向けて、ご本人・ご家族の思いを聴かせていただき方針の共有に努めることが必要。	入居時に看取り指針について説明をしています。これまでに対象者はいませんがグループホームへの退院は難しいとされた利用者が戻ってこれ元気に回復された経験があり、今後は利用者家族の思いを確認しながら、話し合いを重ねて重度化の対応に取り組んでいきたいと考えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応の学習会を開催している。緊急時対応の分かりやすい本を供え学ぶことができる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練をご利用者参加で実施している。運営推進会議で地域の協力を依頼、強力して頂ける態勢はある。	年2回防災訓練を行っています。昼間想定では消防署立会いの下、夜間想定では併設事業所と合同で行っています。運営推進会議において災害時には地元の方の協力を得られるように依頼しており協力を得られる体制になっています。又消防署が近隣にあることで安心に繋がっています。	

グループホームあみの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	名前であったり苗字であったり、その方に馴染みの呼称で話しかけている。職員を…ちゃんと、親しみを込めて呼んでもらえる信頼関係も構築できている。希望や訴えが伝えやすい環境づくりができていと思える。言葉の理解が難しくなってきたとしても今の関係づくりを大切にしっかりと信頼関係を深めていきたい。	職員は丁寧な言葉掛けを心がけ、排泄時の声掛けにも配慮しています。職員に不適切な対応が合った場合はその都度注意を促したり、連絡帳などに記録しケア会議で確認しています。個人情報には鍵のかかる場所に保管しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	訴えには寄り添い、日常生活活動は選択肢を提供し自己決定できるような環境づくりに心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「外に出かけたい」という希望があれば外出に誘ったり、希望がなくても外へ出ようとされる方があればその方に合わせて一緒に外に出る等職員が連携して行動している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	「今着ている洋服は好まない…おしゃれがしたい」と希望される方もある。希望の洋服を選んでいただき着替えを介助する。整髪、髪型、スキンケア等今まで馴染んでこられたことを大切に継続につなぐことを心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日、年中の行事の時等献立を一緒に考える。一緒に調理したり味付けをしたり、盛り付け、後片付け等その方に出ることを一緒にやる事ができる。いつまでの美味しく食べる事につながるように嚥下体操も取り入れている。	毎日一緒に食材の買い物へ出かけています。できるだけ多くの利用者に関わって貰えるように職員が段取りを行い調理や味付け、後片付けなどできる事を一緒に行っています。利用者で作った手作りのランチオンマットを敷き職員と共に食事を楽しんでいます。月に1度町内のレストランへ外出に出かけることも楽しみの1つとなっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立の基本は、他事業所の管理栄養士の立てたものを参考にして職員が立てている。その方のその時の状態に合わせて食事形態を判断している。排便を促すため1日1回、玄米食を取り入れている。水分摂取表に記入し確実な量の確保を行っている。		

グループホームあみの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、食事後の口腔ケアを介助している。今までの習慣から塩での歯磨きをされている方もある。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表からその方のパターンを知りトイレ介助を行っている。認知症状から見守りが必要な方もあるが、その日によっても違う出来ること出来ない事を見極め自立を支援する介助を行う。	全利用者にトイレでの排泄を支援しています。個々の利用者の排泄パターンを過去の記録から把握し一人ひとりに添った支援を行っています。紙パンツから布パンツとパットに変更することで状態が改善した車椅子の利用者があるなど自立に向けた支援に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	玄米食、繊維のある食材を使う、水分をとる、身体を動かす等意識し取り入れるように心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一応の入浴日を決めてはいるが、その方の生活や気持ちに合わせて随時対応を行う。「明日は受診日だから今日の内に入浴しておこう・・・」「明日の体制では無理があるから今日の内に入って頂こう・・・」等柔軟な変更もある。	週2回入浴できるように支援していますが、それ以外にも足浴やシャワー浴をするなど希望や状況に応じて柔軟に対応しています。入浴剤を入れたり、拒否傾向がある方はタイミングを見計らい声の掛け方に工夫するなどして対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や様子を見て、横になり休まれることの声掛けを行っている。ご本人の声を受け止め季節に応じた寝具を準備している。安眠につなぐ為パジャマへの更衣を勧め介助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診介助した職員が記録に残し全員が把握している。処方箋をいつでも見られる場所に一括保管し確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員の世代では経験していない過去の生活習慣を知ろうと意識し、先輩職員中心に取り入れている。今まで好きだったこと等を聞き出し行ってもらっている。気分転換できるよう余暇活動を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限るその日の希望に寄り添うように努めている。生活歴や今まで好きだったことを聞き出し、ご家族の協力も得ながら望みの叶う支援に繋げている。地域の回覧で行事等知り地域の中に出かけ参加している。	毎日の職員との買い物や、ホームの用事などに一緒に外出しています。法人が行う『ほほえみ喫茶』に出かけたり、地域の地藏盆や祭に参加しています。又利用者の希望を聞きながらドライブや季節毎の花見、外食、家族を交えた遠足など外出の機会を多く持てるよう支援しています。	



グループホームあみの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には預り金対応となっている。2名のご利用者の方は財布を手持ちされ時々見では安心されている。現状、管理的な支援になっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話されることはないがご家族からの電話を取り次ぎ話しをされる。孫娘さんからのお祝いに、ご本人の言葉を職員が代筆しポストに投函していただく。届いた手紙は職員が代読させていただく。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ハード面で本当に限られた空間ではありますが家庭である事を意識し環境づくりに努めています。季節の草花を一緒に摘んできてさしています。天気の良い日には窓を開け掃除も一緒に行っています。	リビングには足踏み式の古いミシンが置かれ、地域の特産品で作られた暖簾、和服の帯で作られたタペストリーや小物類が随所に飾られ趣きがある家庭的な空間となっています。事業所内は掃除が行き届き清潔に保たれており利用者は思い思いの場所で寛いでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一つしかない共有空間です。それぞれの居場所が何となく決まっています。自然と集まり職員も含め談笑できゆつくりと過ごせる空間となっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や置物、布団等今まで使い慣れたもの持参して頂いている。	畳の部屋とフローリングの部屋があり、空きがあれば選ぶことができます。部屋の入り口に自身で作られた刺し子の暖簾をかけ、家族の写真やカレンダーなど使い慣れた馴染みの品を持ち込まれています。家族の訪問時に自由に模様替えをされるなど居心地よく過ごせるように工夫されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	異食行為のあるご利用者さんがおられる為目の届かない空間に危険となるものを置かないようにしている。食器洗い等は見守り行う。手すりの設置し室内履きもその方の歩行状態に合わせ、ご本人の意向を聞き入れた上で安全への配慮を行っている。		